児童の思いを実現する教育活動の推進

武蔵野市立関前南小学校
校長　鈴木健太郎

実践1　「関前スタンダード」の改訂（第6学年）

◇「関前スタンダード」とは……
基本的な生活習慣や学習習慣などに関するきまりとして、毎年春に全校児童に配布している。今までも改訂はあったが、教員で検討し、改訂を行っていた

◇「関前スタンダード」改訂までの流れ

児童の行動　教職員・学校の動き

「できているかな？関前スタンダード」（達成率アンケート）【1学期】

↓

達成度の振り返り（児童）・指導方針の確認・修正（教員）をねらい実施
⟹ 結果を分析、職員会議にて共有し、各学級指導の根拠とした

「関前スタンダード」で、変更したい内容や意見を考える【夏季休業時】

↓

達成状況を受け、実業に適した内容か、変更すべき点はないかを考える機会を設定
⟹ 自己の振り返りとともに、よりよい「スタンダード」作成への意識向上の機会となる

よりよい「関前スタンダード」を考えよう［武蔵野市民科］【2学期】

↓

『今の自分たち』に適した「関前スタンダード」の内容を考える学習を設定
⟹「自分たちの思いを実現するためにはどうしたらよいか」を考える中で、以下のような思考の流れが生まれた。
『どのような進め方をすればよいか（誰に伝えるか・どんな場で提案すべきか）』
→「児童会議で提案すれば全校の話題になる」（校内組織に乗せると検討機会が生まれる）
『どんな伝え方をすればよいか（ルールを変える根拠を明確にする必要があること）』
→「校長に提案することで、先生たちに聞いてもらえる」（教員の議論のきっかけを生む）

児童会議での提案【3学期】

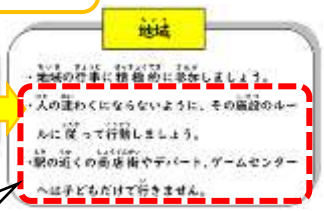
令和4年度版	6年児童の提案
学年×10分をめやすに取り組みましょう。	自分に必要な学習と宿題をやりましょう。 やるべきことをやりましょう。
公園やコミュニティセンターなど、みんなが使う場所での遊び方を考えましょう。	人の迷惑にならないように、その施設のルールに従って行動しましょう。
名前は「～さん」を付けて呼びましょう。	授業中には～さんを付けて呼びましょう。また、授業中以外は相手がいい気持ちになるような呼び方をしましょう。

⟹ 校長も児童会議に参加し、提案を受取り、職員会議にて教員間で共有することを伝える。

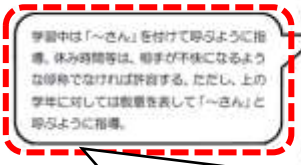
職員会議にて特別活動部より報告 → 生活指導部が集約、改善案の検討・提案

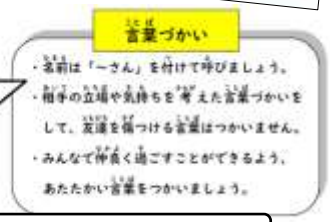
Jamboard を活用し、意見共有・議論

検討を重ね、改訂版を完成【3学期】



児童提案を受けた文言変更。
場所についても、現状を考慮し変更。





教員用指導資料に、指導の際の具体例を明記。

【実践を通して】
　今まで、受け身で与えられてきた学校のきまりについて、児童自身が改訂に参加できると知ることは、今後の社会参画する意識の醸成につながると考える。また、今回の取組で、教員と児童の感覚や見方・考え方の差異について理解を深めるきっかけともなった。

実践2 「千川上水をよりよくするための武蔵野市への提言」(第4学年)

本校のプレセカンドスクールは、静岡県島田市を中心に実施している。牧之原大茶園や製茶工場の見学など「お茶」が大きなテーマの1つであるが、自然に囲まれた地域を生かした学習もテーマに設定している。中でも、宿泊場所のそばを流れる、大井川につながる伊久美川での水生昆虫観察は、地元協力者のお力を受け、毎年充実した活動となっている。

そこで、事前に本校のそばを流れる千川上水を、自然という視点で見学することから、武蔵野市民科につなげる学習を始めた。

現在の千川上水の事を知ろう

千川上水をいろいろな角度から見つめ直し、現在の様子を調べる活動
⟹ 武蔵野自然塾に協力をいただき、生物や植生についての理解を深めることができた

伊久美川の水生昆虫を観察しよう[プレセカンドスクール]

伊久美川の水生昆虫を観察し、千川上水の生き物と比較する
⟹ プレセカンドスクール全体を通して感じた自然環境の豊かさや、伊久美川と千川上水で生息する水生昆虫の違いを知り、千川上水をよりよくするためのきっかけとした。

千川上水をよりよくするためにできることを考えよう[市民性を育む教育活動]

千川上水、伊久美川を比較しながら、よりよくするための改善策をグループ毎に考える。
⟹ プレセカンドスクール実施後に、再度千川上水に訪れ、以前とは違う視点で観察を行った。

考えたことを実現するために、誰に伝えるとよいだろう？ → **市長さんに聞いてもらおう!**

保護者への発表会ではなく、自分たちの思いを実現するために、誰に伝えるとよいのか考えさせた。
⟹ 地域コーディネーターの協力を得て、市長、緑のまち推進課職員に来校してもらえることに。

市長さんに聞いてもらおう

「千川上水に適した植物を植えてほしい」
「コイと小さな生き物たちを区分けする杭を打ってほしい」
「市が以前行った「仙川リメイク」を千川上水でも計画してほしい」
⟹ 児童の様々な提案に対して、市長、緑のまち推進課職員、武蔵野自然塾、地域コーディネーターに、それぞれの立場から回答していただけた。

【実践を通して】

地域での体験、プレセカンドクールでの体験の双方を比較し、今住んでいる地域をよりよくするための方策を自分たちで考える、という進め方は、児童に自分事として考えるきっかけとなった。そして、自分たちの考えを大人に提案するという活動は、武蔵野市民科が目指す社会参画につながっていくと考える。

実践3 児童主体で行う児童会議

本校には、『児童会議』という不定期で開催する児童組織がある。児童会議は、各委員会活動の委員長と第4学年以上の各クラス委員が集まり、運営委員会児童の進行で、学校の課題や方向付けをしていく会議である。

その活動を支えているのが、各学級で行う「学級活動」である。全学年で学級活動における話し合い活動を重視し、次の各段階を設定している。

・いろいろな視点や考えから意見を出し合う「広げる」段階
・出された意見を分類したり、意見に対する考えを出し合ったりする「集約する」段階
・集約された意見を「まとめる」段階

これらの段階を基本として、発達段階に応じながら児童を主体とした話し合い活動の推進を図っている。また、黒板表示(「ここです」「議題」「広げる」「集約」「まとめる」「決定」)を整え活用することで、異学年が集まる児童会議においても、学年間の差異なく、円滑に進めることができるよう取り組んでいる。